

(平成23年10月分)

部 門	市況の概要
野 菜	10月期の野菜の入荷状況は、前月の台風やその後、曇天が続いた影響から、上旬は、多くの品目で入荷減となった。中旬以降、天候の回復にともない、入荷量も回復した。月全体の入荷量は、前年同期を7%上回った。 価格は、根菜類、葉菜類、果菜類では、品目により様々であった。土物類では、前年単価高であったことから、単価安となった。野菜全体では、前年同期を3%下回った。 品目別には、長ダイコン、ハクサイが入荷増の単価高、ホウレンソウが入荷増の単価前年並み、キャベツ、レタス、ピーマン、タマネギが入荷増の単価安、西洋ニンジン、トマトが入荷、単価ともに前年並み、バレイショが入荷前年並みの単価安、キュウリ、ナスが入荷減の単価高となった。 根菜類は、入荷が6%増加し、価格は7%高となった。 葉菜類は、入荷が11%増加し、価格は9%安となった。 果菜類は、入荷が前年並み、価格は7%高となった。 土物類は、入荷が8%増加し、価格は14%安となった。
果 実	10月期の果実の入荷状況は、生育期の天候不順の影響からリンゴ類、ブドウ類、メロン類で入荷減となった。一方、本年が表年の柑橘類及び、前年が不作で著しく入荷の少なかった柿類では、入荷増となった。全体の入荷量は、前年同期を5%下回った。 価格は、入荷減であったリンゴ類、メロン類では、単価高となった。同じく入荷減であったブドウ類では、単価高であった前年同期並みとなった。入荷増であった柑橘類、柿類は、単価安となった。果実全体としては、前年同期を7%下回った。 品目別には、ミカン、富有柿、刀根・平核柿が入荷増の単価安、巨峰が入荷前年並みの単価安、ふじリンゴ、アールスメロンが入荷減の単価高津軽リンゴが入荷減の単価前年並みとなった。 柑橘類は、入荷が5%増加し、価格は15%安となった。 リンゴ類は、入荷が31%減少し、価格は15%高となった。 柿類は、入荷が58%増加し、価格は21%安となった。 ぶどう類は、入荷が18%減少し、価格は、前年並みとなった。 メロン類は、入荷が18%減少し、価格は3%高となった。

主要品目（野菜）	市況の概況
【根菜類】 長ダイコン 西洋ニンジン	北海道を中心に、石川県、青森県、兵庫県、千葉県からの入荷。 多くの産地で、前月の台風の影響から出荷の遅れがみられ、本月中旬以降に入荷が集中した。入荷量は、前年同期を12%上回った。 価格は、上旬が全国的な品薄状態から高値で推移し、月全体でも、前年同期を12%上回った。 北海道を中心に中国、ニュージーランドからの入荷。 主力の北海道産では、前月の台風の影響で、作柄不良がみられたものの、前年の入荷が少なかったことから入荷増となった。一方、中国産の入荷が、減少したことから、全体の入荷量は、前年同期並みとなった。 価格は、下位等級の入荷が多かったことから、単価安であった前年同期並みとなった。
【葉菜類】 ハクサイ キャベツ ホウレンソウ レタス	長野県を中心に、茨城県、滋賀県、大分県、北海道からの入荷。 各産地とも、前月の台風の影響で、上旬は、入荷減となったものの、下旬は、天候の回復にともない入荷増となった。全体の入荷量は、前年同期を15%上回った。 価格は、中旬までは、全国的な品薄状態から高値で推移した。下旬は、入荷量の回復に伴い、安値となった。月全体では、前年同期を17%上回った。 群馬県、長野県を中心に、茨城県、愛知県、北海道からの入荷。 主力の群馬県産、北海道産で、前月の台風の影響で、入荷減となったものの、長野県産、茨城県産、愛知県産の入荷が順調であったことから、全体の入荷量は、前年同期を8%上回った。 価格は、入荷増により、前年同期を9%下回った。 岐阜県を中心に、京都府、滋賀県、和歌山、茨城県からの入荷。 主力の岐阜県産では、台風の被害も無く、作柄良好であった。全体の入荷量は、前年同期を21%上回った。 価格は、前年同期並みとなった。 長野県を中心に、茨城県、長崎県、兵庫県、徳島県からの入荷。 主力の長野県産で、前月の台風の影響から、作柄不良がみられたものの、全体の入荷量は、前年の入荷量が著しく少なかったことから前年同期を5%上回った。 価格は、入荷増であったことまた、前年が単価高であったことから、前年同期を29%下回った。

【果菜類】	
キュウリ	滋賀県を中心に、群馬県、北海道、宮崎県、福岡県からの入荷。 多くの産地で、前月の台風やその後の曇天による日照不足から作柄不良がみられ、入荷量は、前年同期を4%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を6%上回った。
ナス	高知県、京都府を中心に、徳島県、岡山県、福岡県からの入荷。 多くの産地で、前月の台風の影響から作柄不良がみられ、入荷量は、前年同期を12%下回った。 価格は、入荷減により前年同期を44%上回った。
トマト	北海道、岐阜県を中心に、茨城県、滋賀県、熊本県からの入荷。 多くの産地で、生育期の天候不順により、作柄不良がみられ、入荷量は、入荷が著しく少なかった前年同期並みとなった。 価格は、高値であった前年同期並みとなった。
ピーマン	茨城県を中心に、大分県、宮崎県、高知県からの入荷。 多くの産地で、上旬は、前月の台風やその後の曇天による日照不足から作柄不良がみられ、入荷減となった。中旬以降、入荷が回復し、月全体の入荷量は、前年同期を6%上回った。 価格は、上旬は、全国的な品薄状態から高値で推移した。中旬以降、入荷量の回復に伴い、安値となった。月全体では、前年同期を3%下回った。
【土物類】	
バレイショ (メーク含む)	北海道を中心に青森県からの入荷。 主力の北海道産で、生育期の天候不順から作柄不良がみられ、小玉傾向での入荷となった。全体の入荷量は、不作であった前年同期並みとなった。 価格は、前年が高値であったことから、前年同期を23%下回った。
タマネギ	北海道を中心に、兵庫県、アメリカ、中国、京都府からの入荷。 主力の北海道産は、生育期の天候不順の影響から作柄不良がみられたが、全体の入荷量は、前年が不作であったことから前年同期を14%上回った。 価格は、前年が高値であったことから、前年同期を14%下回った。
【その他野菜】	
松茸	国外は中国、カナダ、アメリカ、韓国を中心とし、国内は和歌山県、山口県、京都府を中心とする入荷。 国内、国外ともに、平年並みの作柄であったが、前年が豊作であったことから、入荷量は、前年同期を51%下回った。 価格は、入荷減であったこと、また、前年安値であったことから前年同期を105%上回った。

栗	愛媛県，京都府を中心に，茨城県，熊本県，島根県からの入荷。 多くの産地で生育期の天候不順から着果不良がみられた。入荷量は，前年同期を 26 % 下回った。 価格は，入荷減により前年同期を 35 % 上回った。
---	---

主要品目（果実）	市況の概況
ミカン	和歌山県を中心に、福岡県、愛媛県、佐賀県、熊本県からの入荷。本年は、表年であるが、生理落果が多く発生したことから、着果数が十分で無く、大玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を５％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を１５％下回った。
津軽 （サン含む）	青森県を中心に北海道からの入荷。 昨年夏の高温の影響により、花芽が少なかったことに加え、春先の天候不順により、小玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を１４％下回った。 価格は、入荷減により、単価高であった前年同期並みとなった。
ふじ （サン含む）	青森県を中心に、長野県、山形県からの入荷。 昨年夏の高温の影響により、花芽が少なかったことに加え、春先の天候不順により、小玉傾向での入荷となった。入荷量は、前年同期を５１％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を１６％上回った。
富有柿	奈良県を中心に、福岡県、和歌山県、京都府、山梨県からの入荷。多くの産地で、大きな天候被害もなく、果実肥大は、良好であった。前年の入荷が著しく少なかったことから、前年同期を１４４％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を８％下回った。
刀根・平核無柿	和歌山県を中心に、福井県、奈良県、滋賀県、山形県からの入荷。主力の和歌山県産では、台風による大きな被害もなく、順調な入荷となった。前年の入荷が著しく少なかったことから、前年同期を４９％上回った。 価格は、入荷増により前年同期を２４％下回った。
巨峰	長野県を中心に、山梨県からの入荷。 主力の長野県産で、生育期の天候不順から小房傾向で入荷となった。全体の入荷量は、入荷の少なかった前年同期並みとなった。 価格は、下位等級の入荷が多くまた、前年が単価高であったことから前年同期を５％下回った。
アールスメロン	静岡県、熊本県を中心に、茨城県、石川県、高知県からの入荷。主力の茨城県産で、長雨の影響から作柄不良がみられ、全体の入荷量は、前年同期を３９％下回った。 価格は、入荷減により前年同期を２４％上回った。